

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2019. 2. 12◆◆◆

【 四国地方整備局 営繕部長 光井 裕二 】

公共建築物におけるCLTの活用について

公共建築物等における木材の利用を促進することを目的とする、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行され、今年で10年目を迎えました。

その間、数多くの公共建築物等において木造化や内装の木質化など、木材の活用が進められてきましたが、ここ数年で新たな建築材料として注目されるようになってきたのが、CLT(直交集成板)です。

CLTは、Cross Laminated Timber の略称で、ひき板(ラミナ)を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネル材料で、強度が高く、ヨーロッパにおいては中高層建物への活用が進んでいます。日本でも、地方創生にもつながる新たな木材需要の創出の一手段としてCLTの活用が期待されています。

四国地方整備局営繕部におきましては、高知県内に所在する嶺北森林管理署庁舎の建て替え事業において、壁や床にCLT材を使用した「CLTパネル工法」を国の庁舎として初めて本格的に採用した木造庁舎の整備に取組み、昨年12月に庁舎本体が完成し、開庁式が執り行われました。

嶺北森林管理署新庁舎においては、CLT材の「見える化」を図るため、建物の外部からもCLT材が見えるようデザインに工夫を行うとともに、建物内部も含め、目に触れる部分のCLT材には全て地元産の杉を使用しています。また、既存庁舎の床材で使用されていたサクラ材の状態が良好であったことから、新庁舎の事務室、廊下、階段等に再利用するなど、木材活用のシンボルとなる庁舎の整備を目指して、様々な工夫を行っております。

四国地方整備局営繕部では、本事業の設計・施工における経験を生かしながら、今後もCLTの普及並びに木材利用の推進に努めて参ります。

目次

- 肱川緊急治水対策 着工式について
- 新春を駆ける「第20回 国営讃岐まんのう公園リレーマラソン」
- 松山河川国道事務所の取組のご紹介

肱川緊急治水対策 着工式について

【 大洲河川国道事務所 】

肱川では、「平成30年7月豪雨」による甚大な被害に対し、再度災害防止に取り組み治水安全度の向上を図るため、『河川激甚災害対策特別緊急事業』が採択され、肱川緊急治水対策を実施していきます。

実施にあたり、12月15日（土）大洲市役所にて、四国地方整備局、愛媛県、肱川流域総合整備推進協議会（大洲市・西予市・内子町）主催による着工式を執り行いました。

式典の最初に、平成30年7月豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福を祈り、参加者全員による黙祷を行いました。

式典には、国会議員、愛媛県知事、大洲市長、西予市長、内子町長、水管理・国土保全局河川計画課長、地元関係者など約100名が参加し、はじめに四国地方整備局長の式辞、引き続き愛媛県知事及び肱川流域総合整備推進協議会会長（大洲市長）の挨拶、国会議員による祝辞を頂き、大洲河川国道事務所長より事業概要説明、緊急治水対策の着工を記念して「はつくわ」を行い、大洲臥龍太鼓保存会による勇壮な和太鼓の演奏で最後を飾って頂きました。

肱川緊急治水対策は、緊急的対応として、土砂堆積部の河道掘削、樹木伐採、暫定堤防の嵩上げを実施し、概ね5年間で激特事業により肱川中下流部の堤防整備や暫定堤防のさらなる嵩上げ等の実施、野村ダム・鹿野川ダム操作規則の変更など、また、概ね10年後には、更なる河川整備や山鳥坂ダムの建設により、今回と同規模の洪水にも安全に流下可能となる整備を行っていきます。

<http://www.skr.mlit.go.jp/oozu/bosai/kinkyuuchisui.html>

新春を駆ける「第20回 国営讃岐まんのう公園リレーマラソン」

【 香川河川国道事務所 公園課 】

国営讃岐まんのう公園では、平成31年1月13日（日）に新春の公園を駆け巡る『第20回 国営讃岐まんのう公園リレーマラソン』を開催しました。

リレーマラソンは、1チーム4人以上10人以内で、1周約2kmのコースを計21周し、タスキをつなぎながら42.195kmの距離をチームで完走を目指します。

今年は、20回目の記念大会で天候にも恵まれ、269チーム、2,202名の参加があり、一般部門、職場仲間部門、ファミリー部門など9つの部門別で競い合いました。また、思い思いの衣装を身に纏ったランナーたちが、爽やかな汗を流しながらマラソンを楽しんでいました。

また、今年4月14日（日）には、「しこく88kmリレーマラソン2019」を開催いたします。1チーム20人以内（42.195kmは20人、21kmは10人以内）でチームを編成し、1周1,760mを約50周する88km部門のほか、42.195km部門、21km部門で順位を競います。

今回は新たに一人でも気軽に参加できる21kmソロ部門を新設。春の心地よい風を感じながらチーム一丸となって走りませんか。ただ今、参加者募集中です。申込締切は、3月28日（木）までとなっております。ぜひご参加ください。

※季節の花情報や旬のイベント情報については、国営讃岐まんのう公園ホームページでご確認ください。

<https://sanukimannoupark.jp/>

松山河川国道事務所の取組のご紹介

【 松山河川国道事務所 】

松山河川国道事務所石手川ダム管理支所です。今年で管理開始以降、46年目を迎えた石手川ダムでは、ダムの抱える課題の解決や、地域の方に喜んでもらえるような様々な取組を実施しています。今回はその一部をご紹介します。

■ダム湖の水質保全対策

石手川ダムでは、平成23年に初めてアナベナという藍藻類の一種が確認され、以降継続的に発生しています。この藍藻類は、ジェオスミンと呼ばれる物質を生産するのですが、これは強烈なカビ臭を伴うため、水道利用者から「水がカビの臭いがする」との苦情が寄せられ、松山市では浄水場に活性炭投入装置を導入するなどの対策をとりました。また、国交省でも平成27年度から水質検討委員会を立ち上げ、アナベナ発生のメカニズムや抑制対策について検討を重ねており、今年度、対策案をとりまとめる予定です。

■愛媛大学との連携

石手川ダムには、森と湖に親しむ旬間期間中のイベントや、学校の授業の一環などで、年間約1,500人が訪れています。ダムを活用した更なる地域活性化を目的として、平成29年から、愛媛大学社会共創学部と連携し、石手川ダムを活用した地域振興施策の検討を行っています。社会共創学部生4名のプロジェクトチームにより、石手川ダムで継続的に実施可能で、集客が見込めるイベントを立案し、国交省は場所の提供や準備物手配等のサポートという役割分担で、昨年は減勢工協でのキャンプ及びダム堤体内や周辺施設を活用した謎解きゲームを実施しました。イベント終了後、学生達による報告会を行い、今回の反省点や改善方策、次年度以降のイベントへの応用等について、活発な議論を行いました。

■流木の無償配布

洪水時、ダムには上流から水とともに大量の土砂や流木等が流れ込んできます。平成30年は、石手川ダム流域に総雨量約400mmの雨をもたらした7月の西日本豪雨や、9月の台風24号の影響で約400m³の流木等をダムでキャッチし、下流への流出を防ぎました。これらを回収し、配布可能な流木約100m³を選別・小割して、12月上旬から中旬にかけて配布する旨の記者発表を行いました。記事は愛媛新聞と読売新聞に掲載され、期間中114組の方が流木を取りに来られ、約80m³の流木を持ち帰っていただきました。この結果、処分にかかる費用約34万円のコスト縮減に寄与しました。利用用途についてアンケートを行ったところ、約半分の方が薪ストーブの燃料で、ガーデニング、風呂の薪としての使用が各2割程度でした。また、宇和島市や鬼北町から取りに来られた方もおられ、関心の高さを感じさせる結果となりました。

流木配布は、出水の規模によってはできない年もありますが、多くの方に喜んでもらえているので、可能な限り実施していきたいと思えます。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

四国地方整備局Facebook

<https://www.facebook.com/shikokuchisei/>

自治体担当者様におかれましては、首長ご本人への転送とあわせて、職員の方への周知もお願いいたします。

「いきいき四国通信」に関するご意見、配信中止・配信先変更のご希望等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

国土交通省 四国地方整備局 企画部 「いきいき四国通信」事務局

mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp
